

関西ビジョン2020

# 関西、おもろい！

## Dynamic Kansai !

- 関西の「突破力」で世界に貢献 -

2008年10月

社団法人 関西経済連合会

はじめに  
- 「関西ビジョン2020」の公表にあたって -

「関西ビジョン2020」は、概ね10年先である2020年を念頭に置き、主として産業面からみた「関西のありたき姿(ありたい姿+あるべき姿)」と、それを実現していくための取り組みを提案したものです。

本年5月に吉田和男・京都大学大学院経営管理研究部教授を座長とした「新・関西ビジョン研究会」を設置し、関西で活躍する中堅・若手の有識者および会員企業スタッフの間で、集中的な討議を経て立案していただいたものを、当会の正副会長および正副委員長・統括委員の活発な議論を踏まえて作成しました。

本ビジョンで特に意識したことは、次の2点です。

第一に、「世界の中の関西」のありようを追求したことです。バブル崩壊以降、これまでの関西は、国内での関西経済の地位低下傾向を食い止めることに最優先で取り組まねばならない状況にありました。しかし現在は、熾烈なグローバル競争が、企業間はもちろん地域間、国家間にまで及ぶ時代へと大きく変化しています。そこで本ビジョンでは、関西と結び付きが深いアジアをはじめ世界において、「関西が輝く道」を検討しました。

第二に、「技術力・ビジネス」の視点を重視しています。地球環境問題や少子高齢化・人口減少社会など山積する内外の深刻な問題への対応は、行政および公的機関が果たす役割とともに、民間企業が有する技術力やビジネス感覚を大いに活用して、民が主体的に行動し、問題解決に貢献することが重要です。

現在、大阪府・大阪市など地元の自治体はじめ各界で、それぞれの将来像が検討されています。本ビジョンは、こうした論議に一石を投じることで、世論を醸成・喚起し、企業・行政・NPOはじめ各界が一丸となって、関西の「新たな発展」を実現しようとするものです。

なお、ビジョン策定の最終段階で、サブプライム問題に端を発した、米国の大手証券会社の経営破綻が発生しました。今回の金融市場の混乱は、1929年の世界恐慌以来の危機的な状況との見方もあり、今後、資本主義の倫理性が問われ、グローバルな経済社会構造そのものが大きく変動する可能性があります。こうした激変する世界の動きを注視しながら、本ビジョンで示した考え方や重点テーマについて、今後とも検討を重ねていく所存です。

本ビジョンについて、皆さまから忌憚のないご意見を頂戴できれば幸甚です。

2008年10月

社団法人 関西経済連合会  
会長 下妻 博

関西ビジョン2020  
関西、おもしろい！ - Dynamic Kansai！ -  
- 関西の「突破力」で世界に貢献 -

．「関西ビジョン2020」がめざすもの

本ビジョンは、概ね10年先となる2020年に向けて、関西の「ありたき姿（ありたい姿＋あるべき姿）」と、それを実現していくための取り組みを示そうとするものである。

当会は、バブル崩壊後の不況の中で、極めて厳しい状況にあった関西経済の復活に取り組んできた<sup>(注1)</sup>。その後、各企業の不断的努力、加えてアジア諸国の経済成長が大きな牽引力となり、関西経済はようやく回復を遂げることができた。

しかし、激化するグローバルな地域間競争のもとで、関西が今後も発展・成長できるかという、多くの課題が横たわっていると云わざるをえない。関西は、全国平均を上回るスピードで少子高齢化・人口減少が進むと予測され、また地方自治体の財政も実質公債比率などで全国と比べても厳しい状況にある<sup>(注2)</sup>。さらに、人材や企業の本社機能の流出は未だ続いており、グローバルな地域間競争に打ち勝って内外から多様な人材や企業が集まるという姿には至っていない。

このような認識のもと、当会は昨年公表した活動の中期指針において「強い産業の実現」「アジアとの共生」「地域の自立 - 関西はひとつ」という三つの重点を示し、これらの視点に立った長期戦略を策定することを表明した<sup>(注3)</sup>。その検討の成果が本ビジョンである。

当会は、本ビジョンの実現に向けて、企業、政府・自治体、大学・研究機関、NPOなどそのために必要なすべての主体に働きかけていく。

．2020年までの世界

1．「チャンス」と「リスク」が同時発生する世界

今日のアジア諸国やBRICsに代表される新興国の急速な経済成長、広範な分野におけるポータリティの進展は、本来的には世界経済全体を成長させ豊かにさせるものである。一方で、このような流れが、地球温暖化・気候変動、資源・エネルギー・食糧問題といった成長制約リスクをより顕在化させており、2020年に向けてさらに深刻化する恐れがある<sup>(注4)</sup>。

また、今般のアメリカのサブプライムローン問題から発生した、世界規模の金融危機に見られるように、ある国の経済危機が瞬時に世界各国に影響するような経済構造が生まれている。東西冷戦が終結して20年近く経過しても、今なお世界各地でテロ・紛争が頻発し、国際安全保障のあり方も依然として大きな問題である。

2020年までの世界は、国や地域の相互関連が更に深まる中で、「チャンス」と「リスク」が同時に発生する時代になるだろう。そこでは、国や地域だけでなく、企業や個人にとっても、いかに「チャンス」をうまく掴むか、また一見「リスク」と思われるような課題をいかに能動的に「チャンス」に転じていけるかがどうか、発展・成長のカギとなる。

世界規模で経済や社会のあり方が、大きく変動していく時代にあっては、将来の大きなトレンドを展望・把握し、これを先取りするような判断や行動を行わなければ、未来の明るい展望を描くことはできない。

## 2. 主体的な行動が問われる日本

わが国の現状は、少子高齢化・人口減少による経済社会の活力低下が進行し、税金・社会保障関係費用の負担増に対する強い懸念が顕在化している。さらに地方の衰退、格差の拡大が問題視され、社会全体に閉塞感が広がっている。政治も内向き志向で、国際的地位と発言力が低下している。

しかし、日本が世界で果たすべき役割は決して小さくない。例えば、成長制約リスクの深刻化は、一方で新たな技術革新へのニーズの高まり、および既存の経済社会システムからの変革を要請し、技術力を誇る日本にとって「チャンス」に繋がるものである。また、経済活動のボーダレス化の進行も、例えば世界の多くの国で、アニメや音楽、小説はじめ日本の現代文化の受容といった新たな「チャンス」を生んでいる。

ただ、こうした「チャンス」も、わが国が掴みとろうとする決意や行動を自ら起こさなければ結局、生かすことはできない。世界に大きく視野を広げ、自らの強みを再認識して、新たな活路を見出せるかどうかによって、2020年のわが国の姿は大きく変わってくるであろう。

### ・関西は「突破力」で世界・日本を変える

#### 1. 関西は「突破力」を発揮したい

このようにチャンスとリスクが同時発生する世界にあっては、地域の将来像を描くにあっても、従来の「自分たちだけが良くなればよい」という地域活性化方策の発想を大きく転換する必要がある。

すなわち、自らの発展のみに関心を持つのではなく、関西が世界や日本にどう貢献するか、どう豊かにするかといった、高い理念・理想に基づいた大きな目標を掲げるべきである。そして、置かれた現状と高く掲げた理想との乖離を認識し、いち早く自らの変革に着手して、世界の持続的発展に寄与する取り組みを行う。この結果として、日本のみならずアジア・世界から多くの人・企業・知を集め、自らも発展するという好循環の形成をめざしていかねばならない。

翻ってみると、関西は多種多様な産業・技術の集積があり、多彩な魅力を有した都市群と豊かな自然を有している。また、アジアとの歴史的・経済的關係を背景に、域内に住む人々と海外の人々が交流する機会にも比較的恵まれてきたことなど「強みと潜在力」を有している。

さらに、世界に先駆けて「ビジネスは世のため人のため」という商道徳・経営哲学を生み出した地域である<sup>(注5)</sup>。こうした倫理観と、革新的・独創的な技術や発想、合理性や生活者の視点などが融合し、「関西スピリット」ともいうべきものが醸成され、人々の生活を豊かにする商品・サービスが関西において次々と生み出されてきた。

今後、関西は、自ら有する「強み・潜在力」を活かし、従来培われてきた「関西スピリット」を呼び起こして、ここ関西でしか生み出すことができない「突破力」を発揮し、具体的な「重点テーマ」に全力で取り組みたい。この結果、世界経済の成長制約リスクの解消、日本の閉塞感の打破につなげ、世界・日本を変えていきたい。

## 【関西の強みと潜在力】

### 多種多様な企業・産業・技術の集積

日本を代表する大手企業、オンリーワン技術を持った中堅・中小企業が、特定の業種に偏らず、素材・部品から完成品まで幅広く存在する。また、太陽光発電、蓄電池、新素材、優れた精度・能力を有した部品など、次世代・先端技術に強みを持つ企業、大学、研究機関が多く存在する。

### 生活者の視点で新商品・サービスを生み出す伝統

ユニークで進取の気性あふれる人材群、厳しい消費者の目といった風土を背景に、即席めん、プレハブ住宅、スーパーマーケット、カラオケ、アニメなど、生活者の視点で新しいものを生み出す伝統がある。

### 東アジア各国との緊密な歴史的・経済的関係

戦前からアジア各国との貿易・交流が盛んであり、現在でもアジアとの貿易額比率は日本平均より高い。また、多くの関西企業がアジアに拠点を置いており、アジア各国の政府も関西地域を重視しているため、要人が頻繁に来訪する。

### 「知」と文化の集積

古くから難波津、飛鳥、奈良、京都などに都が置かれ、長い年月をかけて日本を象徴する多様な文化を創造し蓄積してきた。また、全国有数の大学や研究機関が存在するとともに、関西文化学術研究都市、大阪彩都、神戸医療産業都市、播磨科学公園都市はじめ学術および研究開発拠点の形成が進みつつあり、全国でも有数の「知」の集積地となっている。

### 多彩な魅力を有した都市群と豊かな自然

京都、大阪、神戸、堺、奈良、和歌山、大津など個性ある都市が近接し、大阪を中心にみれば電車ではほぼ1時間以内で移動可能な都市圏を形成している。また、日本を代表する湖である琵琶湖、六甲山系・生駒山系など、都市圏のすぐ傍に豊かな自然を有している。

## 【「関西スピリット」の構成要素】

「世のため人のため」という商道徳が表す「倫理性」

新たな技術や発想でピンチ・リスクをチャンスに転換する「革新性」

商売っ気を発揮して「生活」の視点から新しい時代を提案する「独創性」

外部からも広く人材を受け入れ、かつお隣さんとの共存共栄を重んずる

「開放性」と「共生」の風土<sup>(注6)</sup>

「ケチ」が褒め言葉となる、本当に有用なものしか評価しない「合理性」

独自の才覚を発揮する「自主独立」の気概

## 2. 「関西、おもしろい! - Dynamic Kansai! -」 - 2020年の「ありたき姿」

関西は「突破力」を発揮し、世界や日本に貢献し続ける。そして2020年の関西の「ありたき姿」は、「国の内外からさまざまな人々や企業が集まり、ますます多様性(ダイバーシティ)を高めて活力に満ち、世界の持続的発展に貢献する課題設定・解決力を持ち、世界の人々の生活を面白く豊かにする製品・サービス等を生み出し続けるような地域」である。

「関西、おもしろい！ - Dynamic Kansai！」 - 世界中の人々がそう思ってくれる地域でありたい。

( 1 ) アジアでも有数の「多様性・活力」に満ちた関西

まず、関西が有している多様な魅力にさらに磨きをかけ、地元で暮らす人々が生き生きと働き学び楽しむことのできる地域を実現する。また、地元の大学はじめ教育・研究機関などで熱心に学んだ人材が続々と輩出され、日本のみならず世界を舞台に活躍する。

一方、アジア・世界から様々な企業、研究者などを受け入れ、関西の企業、大学、研究機関などとのコラボレーションにより、地球環境問題や資源エネルギー問題、人口問題など世界規模の新たな課題設定やその解決のための提案が次々と発信される。多くの留学生もアジア諸国をはじめ世界中から招かれ、日本人および他の外国からの学生と共に研鑽し交流を深める。このほかにも、関西の歴史、文化、産業はじめ多様な魅力に惹かれて、国内外から多くの人々が続々と集まり、多様性が更に深まり、新たな価値を生み出していく。

( 2 ) 最先端の「技術・創造力」で世界をリードする関西

世界有数の情報家電産業、食品、医学等のバイオ産業、先端医療産業、ソフト・コンテンツ産業といった次世代をリードする産業に加え、高付加価値化が進む鉄鋼・化学はじめ素材産業、多様で層の厚いものづくり基盤産業の集積がさらに充実する。そして、全国有数の大学、特色ある研究開発拠点と、こうした産業集積との連携・融合により、さまざまな技術革新が創出される。

これらによって、世界経済の成長制約をブレイクスルーするような技術が生み出され、常に世界から注目される。一方、常にアジア・世界に目を向け、持ち前の創造力や進取の気性で世界の人々の豊かさを支える新たなサービスやトレンドを創出する。

( 3 ) 「自立・地域力」アップでわが国の変革を先導する関西

関西の「突破力」は、アジアはじめ世界の持続的発展のためだけでなく、わが国の政治社会構造の変革にも大きく貢献する。

関西が他地域に先駆けて導入しようとしている広域連合は、更に発展を遂げ、行政での広域的取り組みが広がる中で、関西は自立し、地域力を一層向上させていく。また、中部地方、中国・四国地方など隣接地域との経済的連携も更に深まる。地域の経済・社会インフラにも思い切った変革が実現する。地域の住民やNPOなども、より広域的な観点から自ら考え判断し、創意工夫し、責任をもって地域資源の選択と集中を進めることが可能になる。

このような関西での取り組みが、道州制導入をはじめとする地方分権確立に向けて議論を更に深化させ、長年の懸案である真の分権型社会の構築を実現させる先駆けとなる(注7)

## ． 2020年に向けた「重点テーマ」

「突破力」を発揮・強化し、2020年の「ありたき姿」を実現するため、関西として取り組む「重点テーマ」を以下の通り提案する。特に今後の10年間の関西の発展戦略を考える上で、「環境」、「技術力・ビジネス力」、「中堅企業」、「アジア・グローバル」が重要なキーワードであり、これらを意識した活動を展開していく。

### 1. 「環境・エネルギー革命」で世界を大転換！

世界の環境問題、資源・エネルギー問題の解決、「低炭素化社会」実現の先導役を目指す。

関西では、優れた環境技術を有する企業や研究機関が数多く集積している。また、温暖化対策の主力として世界的に見直されている原子力発電も、地域の理解の下、世界をリードする技術で温室効果ガスの削減や電力の安定供給に貢献している。

さらに、全国に先駆けて経済界と行政が協力して「エコスタイル(クールビズ)」を導入するなど、環境に配慮したライフスタイルを率先して取り入れてきた。このように関西は、低炭素化社会の実現に向けた優位性を有している。

そこで関西では、新エネルギーや次世代環境技術の開発、環境ビジネスの振興、環境に配慮した新たなライフスタイルなどを統合した環境保全モデルの実現・普及をめざし、世界に対して「環境先進地域・関西」をアピールする。特に、成長著しい中国、インドといった人口10億人を超えるアジアの大国に対し、具体的な技術事例を提示し、ビジネスの視点から環境問題を解決していく。

また、大阪駅北地区2期開発や関西文化学術研究都市(けいはんな)に、数多くの次世代環境技術を盛り込み、各地域の環境の取り組みとの連携により、世界の手本となるような環境先進地域・関西を創出する。

### 【アクションプラン】

#### (1) 新エネルギーの開発・普及や環境ビジネス拡大に向けた取り組み強化

- ・ 大阪駅北地区2期開発区域において、次世代環境技術により環境負荷を低減する新技術の実証の場や先端技術の展示、事業化、商品化の支援等ビジネス創出等、環境をテーマに連携や交流を生む都市型拠点を形成する。
- ・ 住宅をベースに太陽光発電、燃料電池など新エネルギーの開発と普及を促進し、関西文化学術研究都市で「環境先進モデル都市」を形成する。
- ・ 次世代環境技術普及促進のための政策提言や海外へのPRの強化

#### (2) アジア諸国に対する環境技術の提案と環境に関する人材育成支援

- ・ 中国、インド、ベトナムなどアジア諸国に対して環境問題解決に資する技術や都市づくりノウハウを提案  
(例 : 「水に関するトータルソリューション」提示で関西を  
アジアの水ビジネスの中心に！)  
(例 : 都市交通の整備と文化力を有した都市のあり方を  
総合的に提案する「関西まるごと輸出計画」)
- ・ アジア諸国における環境問題解決に資する人材育成支援  
(例 : 「アジアの環境人材育成 関西フォーラム(仮称)」の創設)

(3) スタイリッシュ・エコライフの提案 - 関西共通エコポイントの取り組みを通して -

- ・ 関西の各地域で行われている省エネ対策の取り組みや、関経連会員企業が提供している省エネ商品・サービスをネットワーク化。それらの行動や購買に対し、共通の「エコポイント」を付与する。
- ・ こうした取り組みによって、関西地域の住民・行政・企業の環境対策への意識を底上げすることで、何かを我慢したり面倒な手続きを踏まなくとも、“誰もが、自然に”エコを意識した生活を送れる地域づくりを目指す。

2. 「くらしを“面白く・豊かにする”ビジネス」, 「観光」でアジア・世界をリード!

関西は、住宅、食、衣料など暮らしに密着したサービスやビジネスを生み出してきた。また例えば関西の家電メーカーは、他地域や世界の他国に先駆けてアセアンや中国に進出し、アジアの経済発展に貢献し、人々の暮らしに喜びをもたらしてきた。新興国の急速な経済発展と共に、これらの国々の人々も本当の豊かさや安全・安心を求める時代になっている。

そこで関西は、「情報家電」, 「食」, 「コンテンツ」, 「観光」, 「スポーツ」, 「医療」など関西の強みである暮らしに関わる「技術力・ビジネス力」を育成強化し、関西の魅力を世界に浸透させ、世界の人々のくらしを面白くすることをめざす。

特に、「ライフサイエンス」分野では、医薬品メーカー、世界的な研究者や大学、研究機関の集積、彩都や神戸医療産業都市構想などのプロジェクトのポテンシャルを統合し、世界中の人々の健康に貢献する一大先端・高度医療拠点とする。

また、関西の「食」は、国内のみならずアジアはじめ世界に対し、大きな魅力である。安全・安心、さらにおいしい「食」をアジア・世界に輸出する。同時に、地産地消の取り組みや農商工連携を一層図り、関西の「食」の魅力を強化し、これを世界中にアピールして、海外からの観光客誘致を促進する。

「観光」については、「食」, 「コンテンツ」などを活用して関西のブランド力をさらに高めるとともに、文化遺産はじめ豊かな地域資源の情報発信を強化し、魅力的な広域観光ルートを開発する。そして、多様な旅行者のニーズに対応して利便性を圏域全体で高めるとともに、アジア諸国を視野に入れた他圏域とも連携して、長期滞在型観光にも対応したグローバル観光圏を形成する。

【アクションプラン】

(1) 「食と農」に“こだわる”関西から食文化を世界に発信

- ・ 農商工連携などにより健康・安全・安心・豊かな食文化を関西で創出
- ・ “おいしい・うまい”「食」の関連産業を輸出産業および観光資源として育成・強化

(2) 関西を世界 No.1 の先端・高度医療拠点に

- ・ 世界トップレベルの多彩なバイオクラスターが集積する関西の強みを結集し、世界 No.1 の先端・高度医療拠点を関西に構築。
- ・ 21世紀の医療体系にパラダイムシフトを起こし、難病患者の健康を回復させる「臓器再生総合メディカルセンター(仮称)」を設立。

### (3) 演出力ある関西を育てる

～関西を魅力的にプロデュースし世界に楽しさ・感動を提供～

- ・関西独自のコンテンツをもとに世界への訴求力ある仕掛け(映像・マンガ・ゲーム等)のプロデュース
- ・映画・音楽・ファッションなどポップカルチャーと世界遺産・伝統文化等の融合による「豊かな暮らし」と「魅力ある観光」の振興  
(例：世界の優秀なマンガ作品・制作者などに授与する「マンガ・アカデミー賞」創設)

### 3. 「K I S P」強化でアジア・世界の「ものづくり拠点」に！

関西には、複数の大手アセンブラ企業を取引先に持つ、業種細分類で国内トップクラス、中核的製品に部品・技術・素材等を提供するなど、電機・機械・化学などの産業分野において、注目すべき特徴を有する独立系の技術力ある中堅企業群が存在している。関西における薄型ディスプレイや太陽電池関連の大型投資は、こうした企業からの部品、素材、装置の供給によって支えられている<sup>(注8)</sup>

まさに「関西スピリット」を体現した、こうしたものづくりを支える企業群を「K I S P (Kansai Independent Supply Partner)」と名付け、これらK I S Pと国内外の企業との連携・融合促進などにより、関西をアジア・世界のものづくりを支える地域にする。

人口30億人を抱えるアジアでは、製造業の実質付加価値が欧米を凌駕し、「世界の工場」としての地位を確立しつつある一方で、ものづくりを支えるサポーター・インダストリーの強化をわが国、とりわけ関西の経済界に求める国々が多い。

そこで、「K I S P特区」といった、税負担の軽減・諸規制の緩和地域を設定する。ここでは、異業種間の交流、特にアジア諸国の企業との連携を促進して、東アジアの生産ネットワークにおける中核的機能を発揮するようなK I S P企業を集中的に育成する。

この結果、古くは“大坂”が、“楽市楽座”を設けて国内各地から物産が集まり、「商都」としての地位を築いたように<sup>(注9)</sup>、世界で最も高品質で精度の高い「部品」「素材」を求めて、内外からヒト・企業が集まり、研究開発や商談・取引が活発に展開される、21世紀の“楽市楽座”の創設を目指す。

また、こうした企業活動を物流面から支えるために、欧米におけるポート・オーソリティ<sup>(注10)</sup>を参考にした新たなシステムを導入する。港湾については、まず、入港料の一元化と港湾利用手続きの統一を図る。そして、阪神港をはじめ大阪湾岸の諸港湾、さらには舞鶴港をはじめ日本海側港湾も含めた一体的運営により、選択と集中による競争力強化を図る。

関西国際空港・大阪国際空港・神戸空港の一体的運営を実現したうえで、これら3つの空港と阪神港をはじめ諸港湾・阪神高速道路など幹線道路を総合的に整備・運営・管理できる組織の検討を行うなど、アジアNo.1の低コスト・高効率の物流インフラを整備する。

#### 【アクションプラン】

##### (1) 技術力ある中堅企業群(K I S P)の強化・集積

- ・新たな研究開発拠点の創設や追加的な研究開発投資の実施時に、固定資産税を減免するなど、税負担の軽減や諸規制の緩和を実施する「K I S P特区」の創設

- ・ K I S P と大企業・大学・研究機関等との技術交流会の開催
- ・ K I S P のグローバル展開の支援

#### (2) 「21世紀関西版ポート・オーソリティ構想」の実現

- ・ 米国のニューヨーク・ニュージャージー州のポート・オーソリティなど、複数の港湾や空港の一体的運営管理を実施している欧米の組織を参考としつつ、さらに関連道路網も含めた、関西独自の陸海空にわたる交通・物流基盤の一体的運営組織の設立を検討する。
- ・ 関西国際空港を核とする3空港の一体的運営組織の実現（路線ネットワークの最適化、経営基盤の安定化）、大阪湾と日本海側でのポート・オーソリティ実現による港湾の整備運営に関する選択と集中の推進を通じ、関西における空港、港湾、主要高速道路の整備・運営・管理を一体的に担う「21世紀関西版ポート・オーソリティ構想」を実現し、アジア No.1 の効率的な物流ネットワークの形成を図る。

#### 4. 「知識と知恵」の一大集積・創出拠点に！

世界中の企業・大学・研究機関の「連携・融合」により、関西から世界に向けて課題設定するとともに、世界で生じるどのような課題にも解決策を提案できる地域にする。

たとえば、昨今の世界金融危機の発生によって、今後のグローバル資本主義はどう変化するか、またどうあるべきかといった、世界的および歴史的な視点に立った研究などについても、関西・日本、さらに世界の有識者が集い、共同で研究し、その成果を発信していく。

このため、アジア太平洋研究所構想はじめ大阪駅北地区のナレッジ・キャピタルを関西の知の集積の拠点とし、関西文化学術研究都市など関西各地のリサーチパークと有機的に連携させる。さらに、世界の経済団体や研究機関、リサーチパークとも連携し、国際的に活躍する研究者の交流拠点を形成する。

そして、世界中から「知」を集める地域にふさわしい、多様性（ダイバーシティ）に対応した社会の実現をめざす。特に、地域のコミュニティの協力を得ながら、外国人を温かく迎え入れるホスピタリティが域内各地で感じられる工夫を行う。同時に、現在の住民にとっても暮らしやすい、満足度の高い住環境等の整備を行い、各種の国際的な都市ランキングでさらに上位を目指す。<sup>(注11)</sup>

また、将来の「関西州」設置を睨み、各国や米国の各州が有するような専門組織を設置し、海外企業・研究機関等の誘致、関西の対外プロモーションを強力に推進する。

#### 【アクションプラン】

##### (1) 「知」の再集積・ネットワーク形成

- ・ 大阪駅北地区におけるナレッジ・キャピタルの中核施設としてのアジア太平洋研究所構想を実現する。
- ・ 関西文化学術研究都市、大阪彩都、神戸医療産業都市などに集積する高度な研究機関や世界レベルの高水準な大学の集積を活用し、国内外から優秀な研究者や企業の集積を図り知の拠点を形成するとともに、有機的な連携を図る。

- (2)「アジア No.1 さらに世界 No.1 住みやすい地域・関西」の形成に向けた、  
都市・住環境の整備
- ・交通標識など公共の表示に英語・中国語・韓国語などを一層普及
  - ・外国人が利用しやすい学校や病院、および教会など生活インフラの整備
  - ・言語の違いを感じさせない自由なコミュニケーションを可能とする技術の活用

(3)「エンタープライズ・関西(仮称)」の設置

- ・海外企業・研究機関等の誘致活動、海外に対する関西プロモーション活動のための専門組織「エンタープライズ・関西(仮称)」を官民連携して設置する。

## 5. 道州制の実現で分権型社会を構築!

重要テーマの中には、「K I S P 特区」、「21 世紀関西版ポート・オーソリティ構想」、「『アジア No.1 さらに世界 No.1 住みやすい地域・関西』の形成に向けた都市・住環境の整備」などの広域基盤政策とともに、環境ビジネスの拡大、新エネルギーの普及、および「食」による観光振興といった地域戦略も数多く含まれている。こうしたテーマの実現には、既存の行政区域を超えた柔軟かつスピーディな対応が求められるが、現行の中央集権体制および府県制の下では、その実現は難しい。

そこで、世界的な地域間競争の中で、魅力と競争力を備えた存在感ある地域として発展するために、府県域を超える広域圏での地域経営力を向上させ、効果的な地域戦略の実行が可能となるよう関西広域連合の機能の拡大を図る。

まず現行の府県から関西広域連合へ移管する事務や国から移譲する事務を増やし、さらには国の出先機関を吸収する。このように関西自らが決定し行動できる体制づくりを全国に先駆けて実践することで、中央政府と都道府県を抜本的に変革する道州制の導入を加速させ、真の分権型社会を構築する先導役となる。

また、国と地方のあり方そのものの抜本改革をまつことなく、現行の都道府県および市町村において、徹底した経営の合理化・効率化や国との二重・三重行政の弊害を取り除いていく。例えば、大阪府・大阪市の業務や部門の統合等により、関西の自治体が具体的変革を進める。

### ． 関経連が果たしていく役割

本ビジョンは、関西内外の企業、政府・自治体、大学・研究機関、NPOなど、多くの主体の理解、協力を得なければ実現できない。その中で当会は、以下のような役割を担っていきたい。

#### 1. “ありたき姿”の実現に向けた「先導役」

本ビジョンに基づき、実現すべき経済社会や地域の発展の将来像や方向性を提案し、多くの主体の賛同を得ていく。

## 2．アクション実行の「コーディネーター役」

ビジョンにおける個々のプロジェクト、アクションプランについて、多様な主体に働きかけ調整役となり実現させる。

## 3．新たな課題の設定やシステム変革を迫る「調査研究・政策提言役」

今後の環境変化にすばやく反応した新たな課題やアクションの設定、必要な経済社会システムの変革（税制・社会保障、金融政策、通商政策など）について、調査研究・政策提言を行う。

以 上

## 【注 記】

### 「関西ビジョン2020」がめざすもの

- 注1：関西経済連合会「関西経済再生シナリオ」(1999年12月)  
注2：関西社会経済研究所「2008年度版 関西経済白書『グローバル化に向けた関西の胎動』」  
第5章 関西自治体の財政危機とその課題(2008年9月)  
注3：関西経済連合会「関西経済の今後の活動方針 = 『100日タスク』の検討結果について = 」  
(2007年10月)

### 2020年までの世界

- 注4：松井孝典著「松井教授の東大駒場講義録 地球、生命、文明の普遍性を宇宙に探る」  
(2005年12月) 松井教授は、いわゆる「2020年問題」を指摘。著しい人口増加・経済拡大により、これまで右肩上がりに拡大してきた地球上の「人間圏」が資源エネルギー・食糧などの制約条件に突き当たるとするもの。

### 関西は「突破力」で世界・日本を変える

- 注5：石田 梅岩(いしだ ばいがん、1685年～1744年)倫理学者。石門心学の開祖。  
「実の商人は、先も立、我も立つことを思うなり」と、実にシンプルな言葉で企業の社会的責任(CSR)の本質的な精神を表現。近江商人の「三方よし」の思想と並び、「日本のCSRの原点」として評価。その思想もやはり営利活動を否定せず、「ビジネスの持続的発展」の観点から、本業の中で社会的責任を果たしていくことを説く。  
市場でおこなわれる競争の重要性に着目することによって近代経済学の基礎を確立した、アダムスミスの名著「国富論(1776年出版)」よりも、先立って表された経済思想である。  
注6：21世紀の関西を考える会「20世紀の関西 歴史から学び将来を展望する」2000年10月  
明治維新後に成功したいわゆる大阪商人の出身は、多くは関西の他府県あるいは、関西以外の地域である。また、戦後に創業・発展した京都企業も同じ。  
注7：関西経済連合会「分権改革と道州制に関する基本的な考え方」(2008年7月)

### 2020年にに向けた「重点テーマ」

- 注8：帝国データバンク「先進ものづくり企業の強みは「独立系」「協業」「供給」スタイル」  
(2008年7月)  
注9：関西経済連合会「なにわの歴史」第3章「なにわの民間活力」宮本又次 1987年5月  
注10：ポート・オーソリティ(port authority)とは都市の港湾を管理運営する、市民を中心とした公企業的な運営組織のこと。英米やその影響を受けた港湾都市において、港湾経営の中心となっている組織。  
注11：諸外国との都市・住環境の比較については、各種の調査機関が公表している。  
それぞれ調査比較の指標は異なっている(文化・環境、教育、インフラ、治安、医療など)。  
Master Card「2008年度世界ビジネス都市度ランキング」2008年6月  
・調査対象75都市中、大阪は22位。東京は8位。  
・1位はバンクーバー、2位デュッセルドルフ、3位サンフランシスコ。  
Mercer「2008年世界生活環境ランキング」2008年6月  
・調査対象215都市中、神戸が40位、大阪が44位、名古屋が54位。  
・1位チューリッヒ、2位ウィーン、3位ジェノバ。  
Economist Intelligence Unit「世界で一番住みやすい都市ランキング」2005年10月  
・調査対象130都市中、大阪・神戸は22位。東京は16位。  
・1位バンクーバー、2位メルボルン、3位ウィーン  
ECA International「外国で暮らすアジア人が最も住みやすい都市」2008年3月  
・調査対象254都市中、神戸が3位。  
・1位シンガポール、2位シドニー、3位メルボルン・神戸、8位横浜

## 【参考】

### 1. 「新・関西ビジョン研究会」メンバー

(座長)	吉田和男	京都大学大学院経営管理研究部 教授
(メンバー)	ポール・デュブイ	ウォールストリートアソシエイツ 西日本代表
	高橋智隆	ロボ・ガレージ 代表
	松本吉彦	NPO 法人ゼロエミッション・プラットフォーム理事
	広石拓司	(株)エンパブリック代表取締役
	大西健太郎	関西電力(株)秘書室マネージャー
	神戸宏明	(株)神戸製鋼所業務部課長
	渡辺秀尚	(株)島津製作所経営戦略室課長
	前田祥吾	住友金属工業(株)大阪総務室担当部長
	神原勝彦	パナソニック(株)秘書グループ関西財界担当参事
	柴田有三	NPO 法人 KGC (Knowledge Gathering & Connection) 理事長
(オブザーバー)	前田浩文	近畿経済産業局総務企画部企画課課長補佐
	長尾正博	(財)関西社会経済研究所事務局次長
(事務局)	(社)関西経済連合会 事務局	徳田龍裕、野島学、日高明子、岩本剛、西村和芳、桐畑成宏、土屋由利子、西村もゆる、岡田真紀、田村洋子、丁田展年、石川紘次、壺井秀一、杉本知奈美、矢野ひとみ

### 2. 「新・関西ビジョン研究会」会合開催実績

第1回研究会 5月22日(木)

1. 「新・関西ビジョン」研究会について、2. 意見交換、3. 今後の進め方

第2回研究会 7月23日(水)

1. 「関西ビジョン2020(骨子案)」について、2. 「アクションプラン候補」について  
3. 今後の進め方

第3回研究会 9月18日(木)

1. 「関西ビジョン2020(案)」について、2. 「アクションプラン候補」について

第1回懇談会 7月17日(木) ローマクラブ 難波菊次郎氏との懇談

第2回懇談会 8月19日(火) 株式会社 クリップ代表取締役 CEO 島田昭彦氏、京都大学ベンチャー ロボガレージ ロボットクリエイター 高橋智隆氏との懇談

この他、事務局による各界の有識者との意見交換、関西2府7県へのヒアリングなどを実施。

以上